



# LA NOUVELLE

## N°16

### PRINTEMPS

東京外語仏友会  
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10  
本郷サテライト 東京外語会気付  
発行責任者 藤倉洋一 (昭45)  
2016.4.1 発行

## 第21回サロン仏友会

去る11月21日(土)恒例のサロン仏友会が本郷サテライトで開催された。当日は好天に恵まれ、56名の出席者で賑わった。

今回の講師は、昭和57年卒の東野香代子氏。「知られざるファッションビジネスの世界」の演題で、幅広い経験を披露していただいた。中でも、スカーフの結び方や、おしゃれなポケットチーフのはさみ方のレクチャーは参加者に好評だった。

続く懇親会の部では、恒例のボジョレ・ヌヴォで乾杯。2015年産の品質は、「ボジョレの帝王」と評されるジョルジュ・デュブッフ氏のコメントによれば、「過去50年間で最高の品質」とのこと。「たしかに、これまでにないおいしい！」との声が多く聞かれた。今回、4名の方が初参加。毎年、若い世代の参加者が増えてきているのが心強い。また、今回も大勢の皆さんにお手伝いいただいた。以下に、講師による投稿をご紹介します。

(幹事 中村日出男記)

## 知られざるファッションビジネスの世界

東野香代子 (昭57)

学生に対して先輩から話をするとき、「目標をもって努力をする」という正統派の人生のお話をたくさん聞きます。残念ながら、私は学生時代に確たる目標など持つことができませんでした。結果、今日にいたるまで行き当たりばったりの人生でしたが、高級ブランドの広報部長、海外ファッション誌の編集者というキャリアは、それなりに羨ましがられたりしています。私がよく学生にアドバイスすることは、「私はこうして成功をおさめた」ではなく、「これから先の人生に起こるさまざまな事象をどういう心構えで受け止めるか」です。結論から言うと、「仕事のキャリアは錬金術のようなもの。そのとき結果が出るわけではないが、過程で身につけたスキルや哲学をいかに“次の自分”のために使うか」です。

大学を卒業して最初に就職したのは、フランス資本の零細ア



講演後の懇親会風景：左手前が東野講師

ウトドア用品の会社で、新卒なのにフランス人社長の代わりに財務諸表をはじめとするパリ本社へのレポートを作成していました。ここでの2年間で、財務や本国向け報告書を随分と勉強しました。1984年、仏高級ブランドのエルメスが日本に子会社を設立する際に転職。社長が外大卒で、フランス商工会議所に登録していた私の履歴書を見て、どうせ人件費が安くてろくな社員が集まらないだろうけれど、自分と同じ大学卒だったら諦めもつく、程度の人選で採用されました。取り扱いは最高級ブランドでしたが、本国から十分な資金提供がない中、社員は全部で17名でスタート。今日、銀座に自社ビルをもつ人気ブランドとは思えない貧乏な会社でした。社長のアシスタントとして、とにかく何でもやりました。主な担当は広報、宣伝、イベントでしたが、買付、投資家向けレポート作成、不動産管理…も。私のキャリアを聞いた大学生によく質問されるのは、「どうやったらトップブランドの広報責任者になれるのか?」です。この質問には、「トップブランドに就職したのではなく、私がか会社を大きくした。広報の責任者ではなく、私ひとりしかいなかった」と答えるしかありません。ブランドビジネスのノウハウなどない時代に、何もかも自分で考えてつくってきました。錬金術と冒頭に書いたのは、現在の仕事にこの時代に身につけたスキルや自信が随分と役に立っているからです。そのひとつが「結果を出すためには、困難を、できない言い訳にしないこと」ということ。日本法人は規模が小さくとも、本国は最高級ブラン

ドゆえ、その体面を保つのはかなりの力仕事でした。

大組織の企業では人間関係が成果よりも優先しがちですが、私が在籍した当時のエルメスはベンチャー企業のようなものだったので、社内で嫌われてもやっかまれても、成果を出した人間の勝ち、でした。当時は客観的に俯瞰する余裕はもちろんありませんから、今にして思えば、ですが。2004年に退職して、故・藤巻幸夫氏に誘われて民事再生になっていた福助に転職。刺激的な20年の後、同業他社でブランドビジネスをやる気はありませんでした。刺激という点では、再生中の福助では、オフィスに行くとき連日テレビカメラが2台は入っていて、老舗企業の再生を取材していました。「まじめ一筋の中堅社員をどやす、外資から来た生意気な女」を演じるのが私の役目でした。外の世界に目を向けずに事業が破綻した企業の社員に刺激を与える、というこのミッションは1年で終了しました。その後、ファッション誌ハーパース・バザー日本版の副編集長に就任しました。おりしも『プラダを着た悪魔』という映画が話題になっていて、海外ファッション誌の編集者は、毎日高級ブランドの服を着て、ショーやパーティに行くとセレブに過ごす、と誤解されていましたが、ちゃんと誌面はつくっていました。編集部では、雑誌を取り巻く広告主と取材先ブランドについて、PRとは逆の視点で考察することができ、大変勉強になりました。これで、国内外の全方位でのファッションビジネス経験が完成しました。

そこで現在は、ファッションビジネス研究所という会社を立ち上げて、これまでのキャリアを総動員した事業を行っています。特に、日本の大学生をパリのブランドビジネススクールに短期留学で引率する業務は、日本とフランスの教育の違いが浮き彫りになり、大変参考になります。一例として、講師が話している最中に、どんどん質問するフランス人学生。日本だったら話の腰を折る非礼な振る舞いと言われることが、海外では興味を持っている積極的な態度に受け取られます。外大の学生には、是非早い時期に一度海外で教育を受けた学生と触れあい、こういったメンタリティの違いを実感しておくことをお勧めします。(株式会社ファッションビジネス研究所代表取締役)

去る2月27日、母校の渡邊啓貴先生を招いて本郷サテライトで特別講演会を開催した。出席者は45名。ご講演の内容を先生に取りまとめでいただいた。

## パリ同時多発テロ—テロ・移民・難民

渡邊啓貴 (昭53)

### 社会統合の挫折とテロ

昨年パリで二回にわたって起こった同時多発テロはホームグロウン(地元出身の)テロリストによる行為であった。一言で言えば、大都市郊外の移民地区で育った非行少年がイスラム過激派と結びついていく中で、社会不満をテロの形で表現するようになった。

移民、その第二世代の文化摩擦や彼らの社会統合の挫折、その結果としての貧困の増幅が彼らをテロリストへと駆り立て、治安を脅かしているという一連の事件に共通の構図がある。昨年11月のテロ事件でブリュッセル郊外のモレンベークというイスラム教徒が80%を占め、若者の半分以上が失業者という貧困地区がテロリストの温床となっていたことは大いに注目された。

いまやテロは政治的信条を超えて、社会統合から漏れていく人々による「反社会的行為」となった。だとすれば、テロはヨーロッパが直面する根の深い社会問題である。しかし同時に西欧社会は、近代市民社会の理想として多文化主義と移民・外国人への寛容政策を基本としている。フランスはこの理念と現実のジレンマに苦しんでいる。

### 「移民」とは誰のことなのか

このような事情は多くの日本国民には理解できない。なぜなら現実感がないからである。単一民族に近い同質性の高い日本のような国では、多くの場合、外国人とは外国人労働者のことであり、さもなければ観光客か、不法滞在者でしかない。

「移民」とは誰のことであろうか。そのことを正面から議論するマスメディアは少ない。実はわれわれにはこの概念はよくわかっていない。場合によっては「不法滞在者」をさしている場合も多い。当然その場合には「移民」のイメージは悪い。

実は明確な「移民」のカテゴリーが日本にはない。いや必要ないのである。なぜならば、婚姻関係を別にすると、外国人が日本国籍を取得できるハードルが高いから、私たちは外国人滞在問題だけを議論しているに過ぎない。

日本の外国人の数は約260万人、総人口の1.95%、外国人労働者

働者数は79万人(内40%が中国人)という数値は、日本では外国人問題は労働力の問題でしかないことを示している。

国連事務総長報告書によると、「通常の居住地以外の国に移動し少なくとも12カ月間当該国に居住する人のこと(長期の移民)」と定義しているが、簡単には「外国人」の海外定住者ということになる。ここには国籍の問題が入っていない。しかしフランスや多くの国では、移民とは、国籍を取得した者も、国籍を取得していない者も含む。この人達は移民第一世代だ。

文化や生活習慣の異なる彼らにとって社会統合は勿論大きな問題である。しかし今日、より大きな問題となっているのは移民第二世代の統合である。だとすればそれは「フランス人の社会統合」の問題である。つまり問題のより重要なポイントは、「移民家族」の統合ということになる。

### ポイントは「国籍付与」と「家族化」

今後日本が外国人労働者により広く門戸を開いていくとすれば、このような社会統合が問題になる。すでに政府の方針は最近のヨーロッパの表現でいえば、「選択的移民政策」に舵を切ろうとしている。「移民」という言葉は使われていないが、優秀な技能・資格のある外国人労働力の導入を視野に入れた方針を打ち出している。

不法滞在外国人問題だけで済ませられることは国にとっては好都合なことだが、世界が難民や移民の受け入れと統合に知恵を絞っているときに日本だけそれでよいということにはならない。グローバルプレイヤーとして存在感を示したいのなら、現状にとどまっていたはならないであろう。

ポイントとなるのは、国籍取得と家族化である。定住を認めるだけで日本国籍を与えないというのは結局正しい対応ではない。定住外国人は十分な権利を持っていないことになるからである。これでは優秀な人も日本に居つく可能性は少ない。早いうちに国籍取得の標準をきちんとしておくことである。国際水準に準拠すると同時に、日本的な条件を早いうちに確立しておくことである。

また家族化が進むと、社会適合できない移民第二世代が多数輩出する可能性も高い。だからといって、家族呼び寄せや再統合を禁止し、労働力の単身赴任だけを認めるというのも世界の趨勢に適さない。

「移民」を論じることなく、外国人労働者についてだけ議論する。そうではなく、外国人を受け入れることを前提に、どのようにしたらよりよく受け入れることができるのか。テロの原因としての移民の社会統合が我々に問いかける問題である。

## 第21回仏友会総会のお知らせ

日時：2016年4月23日(土) 午後2時～5時  
午後2時～総会、2時20分～講演  
3時50分～写真撮影&懇親会  
会場：大手町サンケイプラザ201・202号室  
(東京メトロ大手町 E1 出口)  
講師：原 耕三氏 (昭和49) \* 筆名 原 進一  
演題：「詭計の正体 ～ミステリーの

発端は染井霊園の初恋…～」



原耕三氏は、東京都出身。卒業後全日本空輸(ANA)に入社。主に国内で地上勤務をされましたが、海外では94～98年アムステルダムでの勤務でした。そこで大病を患い、入院中若い頃に読んだ松本清張作『アムステルダム運河殺人事件』を土台に小説を書くことを思いつき、10年以上構想を練った結果、『アムステルダムの詭計』を執筆。これが、昨秋、見事に「福山ミステリー文学新人賞」を受賞しました。選者のミステリー作家島田莊司さんは「本格ミステリーの潮流の変わり目になるかもしれない」と最大の賛辞を贈っています。小説には、母校も登場するとか・・・5月に出版される予定です。

その前に今回は、受賞された小説に関することは勿論、学生時代の思い出やこれまでの体験を語っていただきます。お誘いあわせの上お出かけください。

参加費：5,000円

同時に、2016年度分通信費1,000円も受け付けます。

申込み：4月10日(日)迄

メルアド保有の登録会員にはe-mailで、それ以外の登録会員には往復はがきでご案内しています。

申込み先：藤倉洋一：fujikura1639919@waltz.ocn.ne.jp

Tel/Fax 048-822-4540

勝亦杏子：anzuko@k08.itscom.net

## 《パリ便り》 商社マンのパリ奮闘記

宮澤弘行 (昭57)



大学を卒業後商社丸紅に入り、この3月で丸34年になります。この間海外駐在は16.5年、内仏語圏が14年、更にパリは9年になりました。商社は海外との取引も多く、世界中に拠点があるのでパリ駐在の可能性も高いだろうと皆さんは思うでしょうが、同業他社でも語学研修を含めて駐在期間は精々6~7年で、通算10年パリで仕事をする人は昨今では極めてまれです。その意味で自分を幸せ者と思わないといけなんでしょうが、本人がびんと来ていないのが実情です。自分は浪人中に女子学生が多いと聞いて仏語科を受験した不埒者ですが、どういうわけか長女は大学で仏語科に在籍しており、長男もこの春から同じ大学・学科で勉強し始めます(残念ながら外語大ではありません)。親として仏語を専攻してはと言ったことは一度もないのですが、何の因果かこんな状態に至っています。長女はC1(欧州評議会設定レベル)に合格して私の仏語を馬鹿にしますし、息子にも直に追い抜かれると諦めてはいます。

## 2015年度第93回外語祭

### フランス語劇「美女と野獣」観賞記

金澤脩介 (昭43)

11月22日、外語祭恒例の語劇を応援・観賞に府中のキャンパスを訪れた。紅葉に彩られた秋晴れのアゴラ・グローバル(円形広場)は各国料理の模擬店が軒を連ねていて、近隣住民を含めた来場者で大賑わいの状況である。工夫を凝らした看板や色とりどりの各国民族衣装なども外語祭ならではのものである。

公演会場となっているプロメテウス・ホールは開演30分前にも拘らず、ホール内は長蛇の列となっていて、期待の大きさが感じられる。事前連絡していたこともあり、前方の招待席が3人分用意されていた。(藤倉洋一仏友会会長(昭45)、西田紀男氏(昭45)、金澤の3名)

受付で「美女と野獣(La Belle et la Bête)」がダンスしている素敵な挿絵入りのプログラムを受け取る。ストーリー、劇中の登場人物、「さわりのセリフ」とその翻訳などがコンパクトに分かりやすく掲載されている。

ナレーターの流暢なフランス語による序章説明と共に幕が開き、「意匠」を凝らした衣装・メイクの登場人物(かわいい姉妹や魔法をかけられて野獣になった傲慢で長身の王子など)が現れる。ストーリーの進展に伴い、舞台が暗転しながら歯切れよく次々展開して行く。フランス語はもとより、照明、音響効果、小道具、振り付けなども洗練されていて素晴らしい。頭の上に乘せたポットやカップなどの配役の女性も可愛い衣装で、これまた観ていて楽しい。

フランスの民話がベースの古典的作品だが、「愛の素晴らしさや強さ、そして永遠性」が観客の心を捉えるハッピー・エンドの物語。出演者全員が、次々に踊りながら挨拶するミュージカル風な終演も工夫が凝らされ優雅で素晴らしい。

終了後、今回の語劇の出演者や舞台スタッフ(フランス語科2年生全体で54人、うち男性は9人)の副代表の市川佑香さん、原作脚本担当の一ノ瀬理沙さんら数人から話を伺う。本会場に入れず、場内立ち見も叶わなかった人達は野外のスクリーンで観劇していたとのことであった。

舞台衣装のままの出演者、(裏方の音響・照明、字幕、振り付

今回の駐在は4年目が終わろうとしており、当社の欧州、アフリカ、CISの活動を監督し補佐する立場にあると共にパリ支店長を兼任しています。会社からはフランス以外に北及び西アフリカのフランス語圏の商売を特にフォローするように指示されており、マダガスカル諸国や西アフリカには頻繁に出張しています。この4年間はそれまでに比べて世界の政治、経済にめまぐるしい変化、変動が生じています。地理的な政治パワーバランスに大きな変化が生じていると共に資源価格の下落により市場経済の優先順位・価値観が揺さぶられつつあります。マダガスカルでテロ事件が先行しましたがパリでも昨年は二度の事件があり、最近ではアフリカの知人からさえパリは大丈夫かと聞かれるくらいです。

11月のテロの方が多くの方が亡くなり、無差別殺人という観点からも重く受け止めなければならないのですが、私個人としては1月の新聞社襲撃事件の方が二つの点から考えさせられるものがありました。一つはフランス人の自由に対する意識です。民主主義の根幹は自由であり、それを革命等により自らの手で勝ち得たのだという強い意識を多くのフランス人が持っており、私などは国民として自由を勝ち得たという意識をあまり持ったことが無かったので驚きでもありました。もう一つは事件に対するイスラム諸国の見方です。事件後にマダガスカル諸国

けなど)舞台スタッフの皆さんと記念撮影を行なう。藤倉会長から市川副代表にお祝い金(=仏友会支援金)が手渡され、今回公演の大成功を祝った。

学生時代の良き思い出にもなる本学の「伝統の語劇」は、今後共ぜひ後輩に継(たすき)をつなげていって欲しいと思いつつながらキャンパスを後にした。(2015.11.22 記す)



キャスト・スタッフらと。右端が藤倉会長、左端が筆者

## 《新幹事からのご挨拶》

### 新たな視点で

山崎るり子 (昭53)

堀辰雄・立原道造・福永武彦が好きだったのが、フランス語を学ぼうと思ったきっかけです。西ヶ原のキャンパスは学園紛争後の気怠さに溢れていました。「言語を学ぶことは文化を学ぶこと」という教授の言葉に鼓舞されましたが、原書を読むうち何かフランスに馴染めないものを感じ、卒業後は英語教師になりました。後年家族でイギリスに住む機会に恵まれ、イギリスを親しく感じたものです。

現在再び高校で英語を教えています。年齢を重ねてみると、若い日に学んだフランス語や文化への情熱が、私の中に色あせずにあるのを感じます。現在の新たな視点から、フランス、日本の文化に深く関わっていきたくと思っています。仏友会のお手伝いを通して、皆様と新たな発見ができますことを心から願っています。(写真左)



## 夏休みはワイン産地巡り

椎名隆一 (昭57)

この度、幹事をお引き受けさせていただくことになりました。現在、日本証券業協会国際部で海外証券市場の調査や国際交流の仕事をしています。卒業後はベルギーの金融機関に数年勤務した後、日本のバブル形成期に証券会社に転職して国際金融の業務を担当。その間、ロンドンに3年、北京に2年弱駐在いたしました。現在の職場には8年前に移りました。学生時代にパリに2年弱留学、北アフリカで3年近くプラント貿易の仕事をしていたため、通常よりだいぶ遅れて卒業しましたが、日本がまだ良い時代だったのか一度も失業せずに今日まで至っております。

最近、趣味の時間を増やすことができるようになり、ここ数年、夏休みはフランスのワイン産地巡りの旅をしています。ワイン・エキスパートの資格も保有しています。また、飯田橋のアンスティチュ・フランスに通い仏語のリハビリに努めており、フランス映画や小説を毎週借りて観たり読んだりしています。(写真中央)

## 優しい眼差しで世界を俯瞰

鈴木洋美 (平3)

仏科を卒業して早25年。光陰矢の如しの心境です。大学時代は二宮先生より「全体を見る眼」で事象を考察することの大切さを学び、卒論では移民政策から経済の在り方を思索した経緯から、卒業後は金融界に入り、市場取引、商品開発等を経て、外資金融にて資産運用や広く経営に関わるリスク管理の分野で研鑽を積んで参りました。

ここ10年は、様々なリスクに対峙する人々の有り様を観察する機会が多く、国民性の違いや人間の心理・行動の実証研究の素材に恵まれました。恩師の思想の根底に流れる、人間を見つめる優しい眼差しに共感することなかりせば、全く異なる展開になったことでしょう。

この度は、年齢層を越えた文化的交流の大切さを感じている折、ご縁があって、幹事の一員となりました。縦の交流に多少の活性化になれば嬉しいとの気持ちです。どうぞ宜しくお願いします。(写真右)

## 昔日の青春 佛友會々報

### 80年のタイムカプセルを開ける 11

坂井英俊 (昭40)

軍国華やかなりし時代、卒業生たちは、各地から仏友会にさまざまな便りを寄せている。

喜多山松之助氏(昭9)からの<東京外国語学校佛友會御中>。<拝啓。久しく御無沙汰致居候處各位愈々御研學之段慶賀至極奉存候、毎度佛友會々誌御惠贈に預り有難第十九號正入手懐かしく拝見仕候。滝村先生の(會報)「年頭所感」拝読致し日本人の強き所以をしみじみと相感じ候。久しく海外に在住致し居り私共は直接吾等祖先の精神を祀れる神社に参詣するの機會御座なく候へ共時に我軍艦の來訪を受け赤き大和魂(此の赤は勿論赤化の赤には之なく)赤誠の赤を表象する軍艦旗を遠く望み見たとき「何事のおはしますかは知らねども、唯ありがたさに涙こぼる」と同様の感深きもの之有候。母国を離れて始めて味はるる(ママ)有難さにて親なき後に初めて知る親の恩に等しきものかと存候>。

まさにサムライの威儀である。海外生活のさなか、ある日目にした日本軍艦の勇姿・日章旗を見て、自らが日本男児「天皇の赤子」たることに感動したというのである。当時多くの愛国

青年、その「国を思う赤心」こそが彼らの amour propre であった。先祖代々骨の髄まで浸透していた皇室への敬慕(公的恋慕)と、生まれ故郷や家族友人恋人への愛(私的恋慕)、そして武士道の系譜たる「恥」への嫌悪、これらの葛藤がやがて「国への無償の献身」へと収斂されてゆく。それを煽り立て公用したのが日本の戦争であった。

これに似て非なるものが昨今のテロである。テロリストたちは彼らの「神のため」無抵抗な良民を惨殺し自らも「名誉の玉碎」をしているというのだが、何の落ち度もない人々を遊びのように殺して喜ぶ「神」がどこかにいるのだろうか。昔カトリック十字軍が神の名を掲げて非道な侵略殺戮を行った、あの悪夢が今また逆の立場から報復のように繰り返されているようにみえてならない。宗教とはいずれも優しい至福への導きではなかったのだろうか。また「宗教が麻薬」なら、合理主義は劇薬ではなからうか。近代に入ってテクノロジーは進化してきたが、合理性への忠誠そして狷介な追求が、良心・善意の劣化をもたらしてはいないのだろうか。昨今なぜか高学歴者による幼稚で無恥な犯罪が増えている。「人格の駄目な者に学問を与えれば、却って社会の害となる」と嘉納治五郎は明言した。

また、いたましい難民をみるにつけ遠く想起されるのは、ゲ

ルマン民族の大移動である。4C~6C末、約250年間の長きに亘り「凶暴なフン族」に追われた西ゴート人たちは、西ローマ帝国内へ続々と避難・移住し、多数の部族国家を作っては相互に争いながらフランク王国に支配され、やがてドイツ・フランス・イタリアへ分立して、西ローマ帝国はこの間に崩壊してゆく。難民の行列とは古代から近代・現代に至るも延々と続いて一向に絶えることがない。他民族融合のかつての大ローマ帝国のように平和で強大な United Nations of Europe を夢みた西欧だったが、今や次第に無念の結末へと向かっているようである。

米山 正氏(昭9)は最前線より小生このたび満州派遣を命ぜられ、北満国境守備のため去る四月任地に到着、其の日直ちに第一回匪賊討伐が行はれ〇〇方面にて頑強なる敵と激戦、我が軍に於ても中尉以下四名の戦死者を出しました。「赤い夕陽の満州」にこの英雄は永久に眠るのです。小生も日本男児として恥かしくない様粉砕身努力致して居ります。

(中略)北満には秋はありません。夏から冬への疾駆です。零下何十度!これから真の北満を味わえる訳です。そしてその機にこそ我ら皇軍の威力は最大限に発揚せられるのです。陣中での乱筆乱文御容赦下さい。末筆ながら佛友會の発展を祈り會員諸兄の今後益々御奮闘あらんことを希望致します。昭和九年九月二十一日、佛友會員諸兄> (次回へつづく)